

科目名	看護学概論	履修単位	1 単位	授業時間 (回数)	30 時間 (15 回)
学年	1 学年	開講時期	前期		
科目責任者	専任教員	担当講師	専任教員 (実務経験有)		
科目目標 看護全般の概念を捉え、看護の位置づけと役割を認識し、看護について考える基礎を養う。					
教育目標との関連性 1 年次到達目標：2・3・5・6・7・10・13					
回数	単元・項目	授業内容			方法
1	看護の本質 1)	看護を学ぶにあたって 看護の本質			講義
2	看護の本質 2)	フローレンス・ナイチンゲール『看護覚え書』			講義
3					
4	看護の本質 3)	看護哲学を論じた理論家による看護の捉え方 ゴードンの機能的健康パターン			講義 GW・発表
5					
6	看護の役割	看護の役割と機能 看護の継続と連携 労災病院の役割			講義
7	看護の対象の理解 1)	人間の「こころ」と「からだ」			講義
8	看護の対象の理解 2)	成長発達 人と暮らし			講義
9	国民の健康状態と生活	健康のとらえ方 国民の健康状態 国民のライフスタイル			講義 GW・発表
10					
11	看護の提供者 1)	職業としての看護 看護養成制度と就業状況			講義
12	看護における倫理	現代社会と倫理 医療をめぐる倫理と看護の倫理綱領			講義
13	看護提供の仕組み 1)	サービスとしての看護 看護提供の場			講義
14	看護提供の仕組み 2)	看護の制度と政策			講義
15	試験				
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 筆記試験 (100%)					
テキスト 系統看護学講座 専門分野 看護学概論 基礎看護学① (医学書院)					
サブテキスト 「よくわかる看護者の倫理綱領」(照林社) フローレンス・ナイチンゲール「看護覚え書」(現代社)					
事前・事後学習内容と方法 授業範囲のテキストを熟読して授業に参加すること。看護理論の要約課題がある。					
その他					

科目名 基礎看護技術論 I (安全を守る技術)	履修単位 1 単位	授業時間 (回数) 1 5 時間 (8 回)	
学 年 1 学年	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 専任教員 (実務経験有)		
科目の目標			
<p>1. 医療における安全を守る必要性と医療安全の基礎的知識を学び、日常生活から危険を回避する行動を取り演習や実習を通しリスク感性の基盤を学ぶ。</p> <p>2. 事例設定することにより、事例を通した安全を考えられる。</p>			
教育目標との関連性			
1 年次到達目標 : 2・3・5・6・7・8・10			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	医療安全とは	生活の中での安全 医療安全とは 医療安全と看護倫理 看護師と法的責任 組織としての医療安全対策	講義
2	ヒューマンエラーとその対策	なぜ人は間違えるのか ヒューマンエラーとヒューマンファクターズ	講義
3	事故を防ぐためにエラーから学ぶ	ハインリッヒの法則 ヒューマンエラー対策	講義
3	医療安全対策の実際	コミュニケーションエラーについて 患者と医療従事者との協働 患者誤認防止、誤薬防止、5Sと6R チームで守る患者の安全、チームSTEPPSとは インシデントレポートの分析方法と活用	講義
5	危険予知訓練	KYTとは KYTの実際	講義 GW
6	看護援助時のリスク	看護援助とリスク 看護実習時の事故と法的責任 援助計画立案時にリスクとその回避方法を考える重要性 患者のリスク因子とは	講義 GW
7	リスクの予測の実際	事例からリスクを予測し援助計画を立案する リスクを回避する方法とリスク発生時の対処について	GW
8	試験	筆記試験	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 筆記試験 100%			
テキスト			
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)			
系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [1] 看護学概論 (医学書院)			
系統看護学講座 専門分野 医療安全 看護の統合と実践Ⅱ (医学書院)			
サブテキスト			
事前・事後学習内容と方法			
講義に関連する教科書を読み予習・復習につなげる。			
援助計画へ医療安全対策を活用する。			
実習でのインシデントレポート、医療安全ミーティングでの活用			
その他			

科目名 基礎看護技術論Ⅱ (コミュニケーションの技術)	履修単位 1単位	授業時間(回数) 15時間(8回)	
学年 1学年	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 専任教員(実務経験有)		
科目目標 1. 看護師-患者関係の形成や、より対象に合わせた援助を実施するために必要なコミュニケーション能力の基礎を身につける。 2. 状況設定する演習により、コミュニケーションを通じた意図的な情報収集を考えられる。			
教育目標との関連性 1年次到達目標: 3・5・6・9・10・11・12			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	コミュニケーションの基礎 1)	1. コミュニケーションの意義・目的 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 非言語的・言語的コミュニケーションの実際	講義 演習
2	コミュニケーションの基礎 2)	関係構築のためのコミュニケーション 接近的コミュニケーション ・接近的行動の前提となる基本的な態度 ・接近的行動と非接近的行動 ・コミュニケーションの基本スキル	講義 演習
3	看護における コミュニケーション 1)	1. 医療・看護におけるコミュニケーション 2. 効果的なコミュニケーションの実際 積極的傾聴と共感的理解の実践	講義 演習
4	ベッドサイドでの コミュニケーション 1)	ベッドサイドでのコミュニケーション演習Ⅰ 関係構築のためのコミュニケーションの実際	演習
5	看護における コミュニケーション 2)	医療・看護におけるコミュニケーション 意図的な情報収集とは	講義
6	ベッドサイドでの コミュニケーション 2)	ベッドサイドでのコミュニケーション演習Ⅱ 意図的な情報収集の実際	演習
7	まとめ	1. 看護におけるコミュニケーションとは 2. 演習リフレクション・自己の傾向と課題	講義 GW
8	試験	筆記試験	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 筆記試験(100%)			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅰ(医学書院)		
サブテキスト			
事前・事後学習内容と方法 ・演習前後にワーク用紙を用いた課題あり			
その他(復習に活用) ・やさしい看護者の倫理綱領(照林社) ・系統別看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[1]看護学概論(医学書院)			

科目名 基礎看護技術論Ⅲ (環境調整と感染予防の技術)	履修単位 1単位	授業時間(回数) 30時間(15回)	
学年 1学年	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 専任教員(実務経験有)		
科目目標 1. 医療現場における感染予防対策の技術を身につける。 2. 患者の生活の場である療養環境を快適な場に整えるための技術を身に着ける。			
教育目標との関連性 1年次到達目標: 2・8・9・10・11			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	感染予防	感染の成立、感染予防の意味、スタンダード・プリコーションとは	講義
2	感染防止策 1)	衛生学的手洗いを身につける	演習
3	感染防止策 2)	防護具の着脱方法を身につける	講義・演習
4	感染予防策 3)	滅菌物・使用した器具・廃棄物の取り扱い	講義
5	環境の意味	人間の生活における環境の意味・療養環境の意味	講義
6	病床環境の構成要素	病院・病棟・病室における環境の構成因子	講義
7	環境アセスメント	対象の環境と環境を整備する意味	講義
8	環境整備 1)	療養環境の測定の実際	演習
9	環境整備 2)	環境整備・防護服の着用	技術確認
10	ベッドメイキング 1)	ベッドメイキングの実際1	デモ・演習
11	ベッドメイキング 2)	ベッドメイキングの実際2	演習
12	ベッドメイキング 3)	ベッドメイキングの実際3・リフレクション	技術確認
13	リネン交換 1)	臥床患者のシーツ交換の実際1	デモ・演習
14	リネン交換 2)	臥床患者のシーツ交換の実際2・リフレクション	演習・GW
15	試験	筆記試験・レポート課題提出	試験
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 筆記試験 80%、 技術確認 20%			
テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ (医学書院)			
サブテキスト 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 (医学書院)			
事前・事後学習内容と方法 教科書を読む、演習事前・事後課題を実施する			
その他 視聴覚教材 実践看護技術シリーズ 環境整備・ベッドメイキング・滅菌操作など			

科目名 基礎看護技術論Ⅳ (活動・休息の援助技術)	履修単位 1単位	授業時間(回数) 30時間(15回)	
学年 1学年	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 専任教員(実務経験有)		
科目目標 1. 活動と休息に関する生理的メカニズムを理解し、対象が健康な生活を送るために必要な看護技術を身につける。 2. ボディメカニクスを身につけ、あらゆる看護技術の基盤とする。 3. 事例を設定することにより、対象に合わせた援助を考えられる。			
教育目標との関連性 1年次到達目標：1・2・8・9・10			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	活動の基礎知識	基本的活動の基礎知識	講義
2		体位の種類と特徴 体位変換の援助	講義
3	体位変換の援助	体位変換の実際	演習
4	移動・移送の援助	歩行の援助について 関節可動域訓練	講義
5	移動・移送の援助の実際	ストレッチャーへの移乗・移送の実際	演習
6		車椅子の移乗・移送の実際	演習
7			
8	安楽な体位とは	安楽と安静について	講義
9		事例患者に対する安楽な体位 安静への援助	GW
10	姿勢の援助	ポジショニング	演習
11	睡眠のメカニズム	休息・睡眠とは 睡眠の種類とメカニズム	講義
12	睡眠導入への援助	睡眠導入への援助 安静への援助 (電法)	講義
13	睡眠のアセスメント	睡眠に対する人間の反応の分析	GW
14	技術確認	車いす移乗・移送	技術確認
15	試験	筆記試験・まとめ	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 課題提出 20% 筆記試験 80%			
テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 看護過程に沿った対症看護 (学研メディカル秀潤社)			
サブテキスト			
事前・事後学習内容と方法 援助計画立案 指定されたテキストページを読んで授業に参加する			
その他			

科目名 基礎看護技術論V (フィジカルアセスメント技術)	履修単位 1単位	授業時間(回数) 30時間(15回)	
学年 1学年	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 専任教員(実務経験有)		
科目目標 1. バイタルサインを正確に測定する技術を身につける。 2. 看護の対象の身体を根拠に基づいて観察する技術と看護におけるアセスメントの視点を学ぶ。			
教育目標との関連性 1年次到達目標: 1・8・9・10			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメントの意味	ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントとは 観察の意義、ヘルスアセスメントに必要な技術	講義
2	バイタルサインとは	バイタルサインに関する基礎知識	講義
3	バイタルサイン測定 1)	バイタルサイン測定の実際 測定値や観察した内容を報告する意味と方法	講義 デモ
4	バイタルサイン測定 2)	バイタルサイン測定の実際	演習
5	身体計測	身体計測の目的、身体計測とアセスメント	演習
6	フィジカルアセスメントの基礎知識 呼吸のフィジカルアセスメント 1)	フィジカルアセスメントに必要な手技 (問診・視診・触診・聴診・打診) 呼吸のメカニズム、呼吸の正常と異常 呼吸状態をアセスメントするために必要な技術	講義 演習
7	呼吸のフィジカルアセスメント 2)	呼吸音聴取、肺の打診、経皮動脈血酸素分圧測定	演習
8	循環のフィジカルアセスメント	循環(心臓・血管・末梢循環)に関わる人体の機能 循環状態をアセスメントするために必要な技術	講義 演習
9	運動器のフィジカルアセスメント	筋肉・骨・関節の働き 筋肉や関節の状態をアセスメントするために必要な 技術(筋力測定・関節可動域測定・MMT)	講義 演習
10	消化器のフィジカルアセスメント	食事摂取から排泄までに関係する人体の働き 消化器の状態をアセスメントするために必要な技術 腸蠕動音聴取、触診、腹水の観察、打診、浮腫の観察	講義 演習
11	脳・神経系の フィジカルアセスメント 感覚器・運動器の フィジカルアセスメント	脳の働き: 脳・神経系をアセスメントするために必要な 技術(意識レベルの観察・瞳孔反射) 感覚器に関係する人体の機能: 感覚器の状態をアセスマ ントするために必要な技術(視覚・聴覚・知覚)	講義 演習
12	バイタルサイン測定 3)	バイタルサイン測定 技術試験	試験
13	バイタルサイン測定 4)	バイタルサイン測定の技術演習の振り返り	講義
14	事例に沿ったフィジカルアセスメント	事例患者に合うフィジカルアセスメントを学ぶ	GW
15	試験	筆記試験	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 提出課題 10% 演習参加状況 10% 筆記試験 60% バイタルサイン測定技術試験 20%			
テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I (医学書院) 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版 (医学書院)			
サブテキスト			
事前・事後学習内容と方法 授業後の技術練習実施			
その他 YouTube 等動画教材使用			

科目名 基礎看護技術論VI (清潔・衣生活の援助技術)	履修単位 1単位	授業時間(回数) 30時間(15回)	
学年 1学年	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 専任教員(実務経験有)		
科目目標 1. 清潔を保持するための清潔・衣生活の看護技術を身につける。 2. 事例を設定することにより、対象に合わせた援助を考えられる。			
教育目標との関連性 1年次到達目標: 1・2・4・8・9・10・11・12			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	清潔の意義・目的	清潔の意義について	講義
2	身だしなみを整える援助	整容・口腔ケア、爪・耳・眼のケアについて	講義
3	部分浴の援助1)	部分浴について 部分浴DVDの視聴 手浴・足浴デモンストレーションと実際、適温湯の作成	講義・演習
4	洗髪の援助1)	洗髪について 洗髪のDVD視聴 ケリーパッドの使用方法 ケリーパッドを使用した洗髪の実際	講義・演習
5	部分浴の援助2)	手浴・足浴の実際	演習
6	臥床患者の清潔援助1)	清拭・陰部洗浄・寝衣交換・整容について	講義
7	臥床患者の清潔援助2)	清拭デモンストレーション	講義・演習
8	臥床患者の清潔援助3)	陰部洗浄・寝衣交換・整容デモンストレーション	講義・演習
9	臥床患者の清潔援助4)	清拭・陰部洗浄・寝衣交換・整容の実際①	演習
10	臥床患者の清拭援助5)	清拭・陰部洗浄・寝衣交換・整容の実際②	演習
11	洗髪の援助2)	ケリーパッドを使用した洗髪の実際 洗髪台、洗髪車を使用した洗髪について	演習
12	入浴・シャワー浴の援助	入浴・シャワー浴について	講義・演習
13	技術確認準備	技術確認のオリエンテーションと準備	講義・演習
14	技術確認	清潔援助の技術確認	技術確認
15	試験	筆記試験	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 筆記試験(80%)、演習・援助計画等の課題提出(10%)、技術確認課題(5%)出席とリフレクション(5%)			
テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術II(医学書院)			
サブテキスト 基礎・臨床看護技術 第3版、看護技術がみえる①(メディックメディア)			
事前・事後学習内容と方法 講義の事前学習課題の実施、演習前に予習、援助計画の立案、演習後は振り返り課題、技術練習の実施			
その他 DVD実践!看護技術シリーズ(入浴・シャワー、部分浴、全身清拭・陰部洗浄、洗髪)			

科目名 基礎看護技術論Ⅶ (食事・排泄の援助技術)	履修単位 1単位	授業時間(回数) 30時間(15回)	
学年 1学年	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 専任教員(実務経験有)		
科目目標 1. 対象の状態に応じた食事介助の看護技術を学ぶ。(嚥下障害のある患者を除く) 2. 対象に合わせた自然な排泄を促すための看護技術を学ぶ。 3. 事例を設定することにより、対象に合わせた援助を考えられる。			
教育目標との関連性 1年次到達目標: 1・2・8・9・10・11・12			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	食事と排泄について	食事の援助における看護師の役割	講義
2	食事のアセスメント1)	食事と栄養のアセスメント	講義
3	食事のアセスメント2)	食事と栄養のアセスメント	講義
4	食事に関する看護援助	食事の看護援助と口腔ケアについて考える	講義
5	食事援助と食後の口腔ケアの実際	食事介助と食後の口腔ケアの必要性和実際	演習
6	排泄のアセスメント1)	排泄のアセスメント	講義
7	排泄のアセスメント2)	排泄を取り巻く環境と援助を考える	講義
8	排泄の援助の実際1)	臥床患者の排泄介助方法	講義
9	排泄の援助の実際2)	臥床患者の排泄介助方法の実施	演習
10	排泄障害時の援助1)	排泄障害のある患者の援助	講義
11	排泄障害時の援助2)	排便障害のある方への援助について(摘便)	演習
12	排泄障害時の援助3)	排便障害のある方への援助の実際(グリセリン浣腸)	演習
13	排泄障害時の援助4)	排尿障害のある方への援助について(導尿・留置カテーテル)留置カテーテルの管理	演習
14	食事・排泄の看護	まとめ	講演
15	試験	筆記試験・まとめ	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 筆記試験(70%)、課題提出(30%)			
テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ(医学書院)			
サブテキスト 基礎・臨床看護技術 第3版			
事前・事後学習内容と方法 演習前に予習と援助計画の立案を実施。演習後は技術の振り返り、演習後の技術練習の実施。			
その他 視覚教材 実践!看護技術シリーズ(食事の介助、排尿・排便の援助、導尿・膀胱留置カテーテル、浣腸・摘便)			

科目名 基礎看護技術論Ⅷ (看護過程展開の技術)	履修単位 1 単位	授業時間 (回数) 3 0 時間 (1 5 回)	
学 年 1 学年	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 専任教員 (実務経験有)		
科目目標 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義を理解し、看護過程の基盤となる考え方について学ぶ			
教育目標との関連性 1 年次到達目標 : 2・3・4・8・10・11			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	看護過程とは	看護における看護過程の意義、5つの構成要素	講義
2	看護の基盤となる考え方	問題解決過程、クリティカルシンキング、倫理的配慮と価値判断 リフレクション	講義
3	看護記録	看護記録とは 記載・管理における留意点 看護記録の構成要素	講義
4	看護過程 1)	ゴードンの機能的健康パターンについて	講義
5	看護過程 2)	対象を理解するために必要な情報と情報の整理 パターンに沿って情報を整理する	GW 演習
6	看護過程 3)		
7	看護過程 4)	一般的な疾患の理解 (対象の経過・症状・検査・治療) と障害部位の機能	
8	看護過程 5)	経過表の記載方法 情報の分析	
9	看護過程 6)		
10	看護過程 7)		
11	看護過程 8)	情報の統合 人間の反応の関連図	
12	看護過程 9)	看護焦点の明確化と優先度の決定	
13	看護過程 10)	看護焦点の明確化と優先度の決定 看護計画立案	
14	看護過程のまとめ	看護計画立案	
15	試験	筆記試験・まとめ	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 筆記試験 60% 課題提出 40%			
テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕 基礎看護技術Ⅰ (医学書院)			
サブテキスト			
事前・事後学習内容と方法 事前課題をもってグループワーク・演習に参加			
その他			

科目名 基礎看護技術論Ⅸ (学習支援の技術)	履修単位 1単位	授業時間(回数) 15時間(8回)	
学年 1学年	開講時期 後期		
科目責任者 専任教員	担当講師 専任教員(実務経験有)		
科目目標 人々の健康にかかわる学習を支援する技術について基礎的な知識と実際を学ぶ。			
教育目標との関連性 1年次到達目標: 1・2・3・4・7・8・9・10・12			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	学習理論	学習に関わる諸理論 学習支援の方法と媒体 学習支援プロセス	講義
2・3	学習支援①	看護におけるミーティング・カンファレンス 健康増進に向けた集団学習支援 ① 対象の現状把握 ② 課題の明確化 ③ 目標設定 ④ 集団指導の内容・方法の検討 発表準備	講義 GW
4	学習成果 発表会・まとめ	プレゼンテーション	発表
5・6	学習支援②	健康増進に向けた個人学習支援(患者・家族) ① 学習支援対象者のアセスメント ② 課題の明確化 ③ 目標設定 ④ 学習支援の内容・方法の検討 発表準備	講義 GW
7	学習成果 発表会・まとめ	プレゼンテーション	発表
8	試験・まとめ		試験
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある ①筆記試験 (50%) ②課題 *授業態度・発表態度を含める(50%)			
テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ (医学書院)			
サブテキスト			
事前・事後学習内容と方法 授業内で提示されたテーマに対して、事前の個人ワーク、グループ学習あり。			
その他			

授業科目

科目名 臨床看護総論	履修単位 1 単位	授業時間 (回数) 30 時間 (15 回)	
学 年 1 学年	開講時期 9 月		
科目責任者 専任教員	担当講師 専任教員 (実務経験有)		
科目目標 1. 呼吸・循環を整える技術を学び、看護過程の事例の病理的状态の理解ができる。 2. 事例を通じた看護過程の学びから臨床判断の基礎的能力を身につける。			
教育目標との関連性 1 年次到達目標 : 1・2・3・4・5・8・9・10・11・12			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	呼吸循環を整える技術	体温管理	講義
2		酸素吸入、吸痰、体位ドレナージ	講義
3	事例紹介	事例患者の情報提供	講義
4 ～ 7	看護過程 1) 2) 3) 4)	情報の分類、アセスメント アセスメントの解説	演習 講義
8	看護過程 5)	看護の焦点と優先順位	GW
9	看護過程 6)	看護目標・看護計画	GW
10	看護過程 7)	対象に合わせた援助計画	GW
11	看護過程 8)	看護の実際の演習 OR	講義
		個別性に合わせた援助の実施の準備	GW
12	看護過程 9)	報告と援助の実際	演習
13	看護過程 10)	援助の評価 (SOAP・サマリー)	講義
14	呼吸循環を整える技術 包帯法	酸素吸入の実際 吸引の実際 ネブライザーの実際 包帯法の実際	演習
15	試験	筆記試験・まとめ	試験
評価方法・配分 提出物 (60%) 筆記試験 (40%) *状況によっては変更になる場合あり			
テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [2] 基礎看護技術 I (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II (医学書院) 看護が見える 看護過程の展開			
サブテキスト			
事前・事後学習内容と方法			
その他			

科目名 成人看護学概論	履修単位 1単位	授業時間(回数) 30時間(15回)	
学年 1学年	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 専任教員		
科目目標 成人期の特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解し、その人にとって最適な健康を保持・増進し疾病の予防に向けた看護を学ぶ。			
教育目標との関連性 1年次到達目標：1・2・3・4・5・			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	成人の特徴と生活	対象の理解 - 大人になること	講義
2		対象の生活 働いて生活を営むこと	講義
3		成人を取り巻く環境と生活からみた健康	講義
4	成人への看護アプローチの基本	生活の中で健康行動を生み、はぐくむ援助	GW
5		健康問題をもつ大人と看護師の人間関係	GW
6		看護におけるマネジメント	講義
7		意思決定支援 家族支援	講義
8	健康レベルや状態に応じた看護	ヘルスプロモーションと看護	講義
9		健康を脅かす要因と看護	講義
10		健康の急激な破綻	講義
11		慢性病とともに生きる人を支える看護	講義
12		障害のある人の生活とリハビリテーション	講義
13		人生の最後のときを支える看護	講義
14		さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援 新たな治療法、先端医療と看護	講義
15	試験	筆記試験・まとめ	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 筆記試験 100%			
テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 成人看護学1 (医学書院)			
サブテキスト			
事前・事後学習内容と方法 テキストを読み参加・ワークシートの提出			
その他			

科目名 老年看護学概論	履修単位 1単位	授業時間(回数) 30時間(15回)		
学年 1年生	開講時期 前期			
科目責任者 専任教員	担当講師 専任教員(実務経験有)			
<b>科目目標</b> 老年期特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解し、日常生活上の課題について理解する。 超高齢社会の現状から、老年期にある対象が抱えている生活課題に対し必要な医療・保健・福祉サービスシステムを学び、老年看護の役割機能を理解する。				
<b>教育目標との関連性</b> 1年次到達目標：4・7・11・12				
回数	単元・項目	授業内容	方法	
1	老いる・老いを 生きるということ	加齢と老化、加齢に伴う身体・心理・社会的側面の変化、加齢への適応(サクセスフルエイジング)	講義	
2		高齢者の定義、発達と成熟、発達課題	講義	
3	超高齢社会と 社会保障	超高齢社会の現況、高齢者と家族、 高齢者の健康状態・死亡・暮らし、 社会参加・就労、セクシャリティ	GW	
4			高齢社会における保健医療福祉の動向 (保健医療福祉システム、介護保険制度、多職種連携、 ソーシャルサポート)	講義
5				
6				
7	高齢者の権利擁護	高齢者に対するスティグマと差別、高齢者虐待、身体拘束権利擁護のための制度	講義 GW	
8	老年看護の役割	老年看護の変遷・目標・特徴 (ICF、地域包括ケアシステム) 老年看護における理論 (エンパワーメント・ストレングスモデル他)	講義	
9	生活・療養の場における看護	高齢者とヘルスプロモーション(介護予防)	講義	
10		保健医療福祉施設における看護 (多様な生活の場、リロケーション要介護・要支援認定と区分)	講義	
11	高齢者のヘルス アセスメント	身体に加齢変化とアセスメント	講義	
12				
13	高齢者の生活機能を 整える看護	高齢者のコミュニケーションの特徴、原則、方法	講義 GW	
14	高齢者のリスク マネジメント	高齢者と医療安全、高齢者と救命救急、高齢者と災害	講義	
15	試験	筆記試験・まとめ		
<b>成績評価の方法・配分</b> *状況によって変更になる場合がある 単位認定試験(65%) 課題提出(グループワーク・振り返り含む)(35%)				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)			
サブテキスト	国民衛生の動向			
<b>事前・事後学習内容と方法</b> 事前は、授業範囲のテキストを熟読する。 グループワークは、準備・発表・振り返りの提出を行い、学びを深める。 事後は、資料やテキストを活用し振り返りを行う。				
その他				

科目名 地域・在宅看護概論	履修単位 1単位	授業時間(回数) 30時間(15回)	
学年 1学年	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 平野誠樹・専任教員(実務経験有)		
科目目標 地域で暮らす人々の多様性を知り、様々な連携で成り立つ暮らしについて理解する			
教育目標との関連性 1年次到達目標: 1・2・7・10・11・13			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	人々の暮らしと理解	いろいろな暮らし	講義
2		1人1人異なる暮らし	GW
3		ライフステージ、健康レベルによる多様性	講義
4		地域包括ケアシステムとは	GW
5		地域で支える 基礎となる4つの助	講義
6	地域を支える専門職	医療 福祉 看護 講義	講義
7		地域を支える連携	GW
8	私たちの暮らす地域	地域特性 物的環境、安全と交通、行政、経済、人口、産業調査	グループ活動
9			
10		地区踏査	
11		実際に観察し把握する	
12		まとめ	
13		報告会 観察の課題から地域の活性化	
14	地域保健に関わる法制度	医療保険と介護保険、社会福祉法	講義
15	試験	筆記試験	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 筆記試験(30%) パフォーマンス評価(40%) 課題(20%) ワーク参加度(10%)			
テキスト 系統別看護学講座 専門 地域・在宅看護の実際 国民衛生の動向 系統別看護学講座 健康支援と社会保障制度4 看護関係法令			
サブテキスト			
事前・事後学習内容と方法 事前には教科書を読み参加する。地域を理解するために調査し発表する。			
その他			

授業科目

科目名 看護研究（看護の探求）	履修単位 1 単位	授業時間（回数） 30 時間（15 回）	
学 年 2 学年	開講時期 全期		
科目責任者 専任教員	担当講師 専任教員（実務経験有）		
<p>科目目標</p> <p>看護の専門職として実践を振り返る姿勢を持つこと、看護に関連した疑問、興味、関心事に対しレポートにまとめる</p>			
<p>教育目標との関連性 2 年次到達目標：1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12.</p>			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	看護研究の意義 目的・種類	看護における研究の意義 看護研究・ケーススタディの目的と種類	講義
2	研究の方法	研究プロセスの流れ 研究計画書の内容 作成方法 スケジュール 文章の書き方	講義 演習
3	倫理的配慮	研究における倫理的配慮 著作権について 先行文献の引用方法	講義
4	文献検索 読み込み	文献検索・文献整理の方法 先行の事例研究の読み込み クリティカルな視点	講義 文献検索
5	文献の引用	考察とは 文献を用いて論証する	演習
6	計画書作成の実際	動機、目的、用語の定義、予測、方法	講義
7	事例研究の原則 ポイント	事例研究のレポート規定について テーマの設定 動機と目的の明確化	講義
8	事例研究の実際 1)	研究計画書の作成	ワーク
9	事例研究の実際 2)	動機・目的テーマ研究計画書に基づいて個人ワーク実践	講義 ワーク
10	事例研究の実際 3)	研究の実際 研究計画書に基づき個人ワーク実施	講義 ワーク
11	事例研究の実際 4)	考察 研究計画書に基づき個人ワーク実施	講義 ワーク
12	事例研究の実際 5)	結論・終わりに 研究計画書に基づき個人ワーク実施	ワーク
13	事例研究の実際 6)	抄録の作成 講評者としてのクリティカルシンキング パワーポイント作成	講義 ワーク
14	口答発表 講評	発表会の運営 発表者としての態度 聴衆としての態度・質疑応答	発表準備
15	まとめ	ケーススタディをまとめるプロセス 看護を語る	発表会
<p>成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある</p> <p>「看護研究」の評価表に基づき評価（100%）</p> <p>事例研究の進行状況と内容 授業参加状況（出席・態度）を含む</p>			
<p>テキスト はじめてでも迷わない！看護のためのケーススタディ（医学書院）</p>			
<p>サブテキスト</p>			
<p>事前・事後学習内容と方法</p> <p>文献検索を行い、先行研究や看護理論を読み事例研究を進めていく。進捗状況の確認や論文指導のため、最終論文提出日までに提出日がある。</p>			
<p>その他</p>			

科目名 基礎看護技術論Ⅹ (診療に伴う技術)	履修単位 1 単位	授業時間 (回数) 30 時間 (15 回)	
学 年 2 学年	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 専任教員 (実務経験有)		
科目目標 1. 診療の補助における看護師の役割を理解する。 2. 対象が安全・安楽に検査や薬物療法を受けるための基本的な知識・技術・態度について学ぶ。 3. 事例を設定することにより、対象の状態と検査や注射の必要性を捉えた技術の実際が考えられる。			
教育目標との関連性 1 年時到達目標：4・5・6・8・9・10			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	診療の補助における 看護師の役割	診療の補助とは、与薬における必要な基礎知識 検査の意義と種類・検査時の看護師の役割と看護	講義
2	検査法 1)	排泄物の検査、穿刺液検査と内視鏡検査、 画像検査 (CT・MRI・超音波・R I) と生理検査	講義
3	検査法 2)	血液検査と静脈血採血の注意事項と実際	講義
4 5	静脈血採血の実際	注射器の取り扱い方法・採血デモンストレーション 静脈血採血演習オリエンテーション モデルを使用しての静脈採血の実施	講義演習
6	与薬法の種類と吸収経路	経口与薬、舌下、経皮、坐薬、点眼、点耳、軟膏	講義
7		筋肉注射・皮内注射・皮下注射・静脈注射の特徴	講義
8	坐薬の与薬法	坐薬の与薬法の実際	演習
9 10	輸液の与薬法	輸液の実施に必要な基礎知識 輸液時の観察・滴下調整 輸液ポンプ・シリンジポンプ使用時の看護	講義演習
11 12 13	注射法の実際	筋肉内注射・皮下注射・皮内注射について 筋肉内注射デモンストレーションと 実際のオリエンテーション モデルを使用しての筋肉注射の実際	講義 演習
14	輸血療法	輸血療法における基礎知識	講義
15	試験	筆記試験・まとめ	
成績評価の方法・配分 * 状況によって変更になる場合がある 筆記試験および課題提出 (演習の援助計画など) 課題 15% 筆記試験 85%			
テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ (医学書院)			
サブテキスト 系統看護学講座 別巻 臨床検査			
事前・事後学習内容と方法 技術演習に向けての事前課題あり 内容は別途提示する			
その他 看護技術が見える②臨床看護技術 (メディックメディア) DVD 実践! 看護技術シリーズ: 「与薬」「注射」「輸液」「輸血」			

科目名 成人看護学方法論Ⅰ (周術期の看護)	履修単位 1単位	授業時間(回数) 30時間(15回)		
学年 2学年	開講時期 前期			
科目責任者 専任教員	担当講師 院内講師 専任教員 (実務経験有)			
科目目標 周術期の看護と援助技術を学ぶ。				
教育目標との関連性 2年次到達目標: 1・2・3・5・7・8・9・10・13				
回数	単元・項目	授業内容	方法	
1	周術期にある患者と 家族への看護	周術期の基礎知識と生体反応	講義	
2		術前看護 手術療法の意思決定支援 術後合併症のリスクアセスメント	講義	
3		術中看護① 外科的侵襲の種類 開腹・開胸・開頭・内視鏡下の手術方法 による影響と援助 ドレーン管理	講義	
4		術中看護② 手術体位による影響と援助 麻酔の影響	講義	
5		術後看護① 術後の経過と観察 術後ベッド作成 継続看護	講義	
6		術後看護② 術後合併症予防と発症時の看護 呼吸器合併症 循環器合併症 術後腸閉塞 肺塞栓症 深部静脈血栓症 術後感染 縫合不全 術後せん妄	GW	
7		術後合併症予防と発症時の看護(2) 呼吸器合併症 循環器合併症 術後腸閉塞 肺塞栓症 深部静脈血栓症	発表 講義	
8		術後合併症予防と発症時の看護(3) 術後感染 縫合不全 術後せん妄 疼痛管理	発表 講義	
9		術後の観察と離床への援助	講義	
10		周術期の看護技術①	術後ベッドの作成と弾性ストッキングの着脱	演習
11			術後の観察	演習
12		特殊治療環境下 における看護	集中治療室における看護	講義
13			人工呼吸器を装着している人の看護 体位ドレナージ	講義
14		周術期の看護技術②	術後の観察	技術試験
15		試験	筆記試験	
成績評価の方法・配分 筆記試験50% 課題20% 技術試験30%				
テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 (医学書院)				
サブテキスト				
事前・事後学習内容と方法 テキストを読み参加。各単元授業後に提示した課題を提出する。				
その他				

科目名 成人看護学方法論Ⅱ (急性期から回復期の看護)	履修単位 1 単位	授業時間 (回数) 30 時間 (15 回)	
学 年 2 学年	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 院内講師 専任教員 (実務経験有)		
科目目標 成人の特徴を理解し、健康レベル (急性期から回復期) に応じた看護の方法を学ぶ。			
教育目標との関連性成績 2 年次到達目標 : 1・2・3・5・7・8・9・10・13			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	健康危機状態にある患者の理解	健康危機状態にある成人の理解 危機理論	講義
2		緊急度と重症度のアセスメント	講義
3		救急外来・救急病棟における看護	講義
4		急変対応とモニタリング	講義
5	循環器障害のある患者の看護	心筋梗塞の治療と看護 CAG PCI CABG IABP	講義
6		不整脈とペースメーカー装着の看護 ICD	講義
7		12 誘導心電図 モニター心電図	演習
8	運動機能障害のある患者の看護	人工膝関節置換術後の経過と看護 ROM MMT CPM	講義
9	乳腺機能障害のある患者の看護	乳がんの治療と看護 ボディイメージの変容 セルフケアの獲得	講義
10	呼吸器障害のある患者の看護	肺切除術後の経過と看護 クリティカルパス	講義
11	消化・吸収障害のある患者の看護	胃切除後術後の経過と看護	講義
12		大腸切除後術後の経過と看護	講義
13		人工肛門・膀胱造設した患者のセルフケア獲得への援助	講義
14		ストーマ管理	演習
15	試験	筆記試験	試験
成績評価の方法・配分 * 状況によって変更になる場合がある 筆記試験 80% 課題 20%			
テキスト 系統看護学講座 臨床外科看護総論 (医学書院) 成人看護学〔循環器〕〔運動器〕〔女性生殖器〕〔呼吸器〕〔消化器〕 (医学書院)			
サブテキスト			
事前・事後学習内容と方法 テキストを読み参加。各単元授業後に提示した課題を提出する。			
その他			

科目名 成人看護学方法論Ⅲ (慢性期の看護)	履修単位 1 単位	授業時間 (回数) 30 時間 (15 回)	
学 年 2 年生	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 院内講師 専任教員 (実務経験有)		
科目目標 成人期の特徴を理解し、慢性期の経過をたどる対象の看護を学ぶ。			
教育目標との関連性 2 年次到達目標：1・2・3・5・7・10・13			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	慢性疾患がある患者 と家族の看護	慢性疾患がある患者と家族の特徴 慢性疾患の治療 と看護の基本 病みの軌跡理論	講義
2	糖代謝障害のある 患者の看護	糖尿病の患者の看護・検査・薬物療法・合併症	講義
3		糖尿病患者の血糖測定	演習
4	身体防御機能障害の 患者の看護	膠原病の看護・検査・薬物療法・合併症	講義
5		膠原病の患者の生活指導計画立案	講義・GW
6		膠原病の患者の生活指導実施	GW
7	脂質代謝障害のある 患者の看護	高脂血症・肥満症・メタボリック症候群の患者の 看護・検査・薬物療法・合併症	講義
8	肝機能障害のある 患者の看護	肝硬変の患者の看護・検査・薬物療法・合併症	講義
9		肝硬変の患者の生活指導計画立案	講義・GW
10		肝硬変の患者の生活指導実施	講義・GW
11	体液不均衡のある 患者の看護	慢性腎不全の患者の看護・検査・薬物療法・合併症	講義
12		慢性腎不全の患者の生活指導計画立案	講義・GW
13		慢性腎不全の患者の指導実施	講義・GW
14	内分泌機能障害の ある患者の看護	甲状腺機能障害のある患者の看護・検査・薬物療法・ 合併症	講義・GW
15	試験	筆記試験	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 筆記試験 100%			
テキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝疾患 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔11〕 アレルギー 膠原病 感染症 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔5〕 消化器 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔8〕 腎泌尿器 (医学書院)			
サブテキスト			
事前・事後学習内容と方法 テキストを読み参加			
その他			

科目名 成人看護学方法論Ⅳ (終末期の看護)	履修単位 1 単位	授業時間 (回数) 30 時間 (15 回)	
学 年 2 年生	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 専任教員 (実務経験有)		
科目目標 勤労者である成人の終末期 (人生の最終段階) の経過をたどる対象の看護を学ぶ。			
教育目標との関連性 2 年次到達目標: 2・3・5・6・10・13			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	終末期看護と緩和ケア	終末期看護とは、緩和ケアの歴史と定義	講義
2	緩和ケアにおける看護師の役割	緩和ケアチームにおけるチームアプローチ	講義
3	緩和ケアの基本①	緩和ケアにおけるコミュニケーション ・患者と医療者の認識の理解と支え方	講義
4	緩和ケアの基本②	緩和ケアにおける倫理的課題 ・臨床における実践的アプローチとは	講義
5	緩和ケアの対象とその特徴	さまざまなライフサイクルにおける緩和ケア 対象の発達段階にあわせたアセスメント	講義・GW
6	全人的ケア①	身体的苦痛をやわらげるための援助	講義
7	全人的ケア②	心理的苦痛 (ストレス・抑うつなど) への支援	講義
8	全人的ケア③	社会的苦痛 (家族・社会とのつながり) への支援 在宅支援	講義
9	全人的ケア④	スピリチュアルケアとは スピリチュアルペインに対するケア	講義
10	全人的ケア⑤	全人的ケアについて理解を深める。	講義・GW
11	臨死期のケア	①臨死期の概念、全人的苦痛の緩和	講義・GW
12		②死亡前後のケア ③エンゼルケア	講義
13	家族ケア	グリーフケア 悲嘆のプロセス	講義
14	非がん疾患の緩和ケア	非がん疾患の緩和ケア	講義
15	試験	筆記試験 まとめ	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 筆記試験 80% 課題提出状況 20%			
テキスト 系統看護学講座 別巻 緩和ケア (医学書院)			
サブテキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学Ⅰ 成人看護学総論 (医学書院) 系統看護学講座 別巻 がん看護学			
事前・事後学習内容と方法 テキストを読み参加・ワークシートの提出			
その他 終末期看護・緩和ケア・スピリチュアルに関連する DVD			

科目名 成人看護学方法論Ⅴ(看護過程)		履修単位 2単位	授業時間(回数) 30時間(15回)	
学年 2学年		開講時期 前期		
科目責任者 専任教員		担当講師 専任教員(実務経験有)		
科目目標 成人期にある障害をもち生活する対象に対し、残存機能の維持・増進を目指した看護をするため、ゴードンの11の機能的健康パターンを用いた看護過程の展開技術を学ぶ。				
教育目標との関連性 2年次到達目標:1・2・3・4・10・13				
回数	単元・項目	授業内容	方法	
1	中範囲理論	ゴードンの11パターンと中範囲理論	講義	
2		中範囲理論の理解	発表	
3	看護展開	事例紹介 情報収集・情報整理	講義	
4		プロフィール・病態関連図・病理的状态の理解	講義	
5		情報収集	演習	
6		アセスメント①	講義	
7		アセスメント②		
8		アセスメント③		
9		看護の焦点の明確化		
10		人間の反応関連図・「看護の焦点」の優先順位		
11		看護計画立案		
12		看護計画実施		演習
13		看護計画評価		講義
14		看護要約		
15		試験	筆記試験	
評価方法 筆記試験70% 看護過程の課題30%				
テキスト 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 (MEDIC MEDIA) 系統看護学講座 専門 成人看護学9 女性生殖器 (医学書院)				
サブテキスト 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 (学研)				
事前・事後学習内容と方法 看護が見える YouTube 視聴 テキストを読み参加 看護過程の取り組み・提出				
その他				

科目名 老年看護学方法論Ⅰ	履修単位 1単位	授業時間(回数) 30時間(15回)	
学年 2年生	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 専任教員(実務経験有)		
科目目標 老年期にある対象の周手術期から急性・回復期における看護を学ぶ。			
教育目標との関連性 2年次到達目標：1・2・3・8・9・10・11			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	高齢者のヘルス アセスメント	高齢者のバイタルサインの特性 生活史 フィジカルアセスメント(CGA含む)	講義
2	健康逸脱からの 回復を促す看護①	症候のアセスメントと看護①(嘔吐、痛み) 身体疾患のある高齢者の看護(脳梗塞)(検査・治療・手術)	講義
3		身体疾患のある高齢者の看護(前立腺がん・膀胱腫瘍)	
4	生活機能を整える 看護①	転倒予防(リハビリ)	講義 演習
5		摂食・嚥下障害のある高齢者の食事介助の工夫	
6		排泄ケア(高齢者に起こりやすい皮膚トラブル)	講義
7		オムツ交換	演習
8			技術確認
9	健康逸脱からの 回復を促す看護②	症候のアセスメントと看護②(発熱、脱水、倦怠感) 身体疾患のある高齢者の看護(慢性閉塞性肺疾患・肺炎)	講義
10	生活機能を整える 看護②	高齢者の口腔ケア・義歯の取り扱い	講義 演習
11		経管栄養実施中の管理	
12	治療を必要とする 高齢者の看護	検査を受ける高齢者の看護 外来を受診する高齢者の看護 入院治療を受ける高齢者の看護(医療施設の種類) 退院支援、自己概念の再構築	講義
13		手術を受ける高齢者の看護(急性期)	
14		リハビリテーションを受ける高齢者の看護(回復期)	
15	試験	筆記試験	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 筆記試験(100%)			
テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)			
サブテキスト 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 第3版			
事前・事後学習内容と方法 事前は、授業範囲のテキストを熟読する。 演習時、援助計画立案・援助後の振り返り提出する。 事後は、資料やテキストを活用し振り返りを行う。			
その他			

科目名 老年看護学方法論Ⅱ	履修単位 1 単位	授業時間 (回数) 15 時間 ( 8 回 )	
学 年 2 年生	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 院内講師 専任教員 (実務経験有)		
科目目標 老年期にある対象の慢性・終末期における看護を学ぶ。			
教育目標との関連性 2 年次到達目標：1・2・3・4・10			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	治療を必要とする	慢性期における看護	講義
2	高齢者の看護	薬物療法と看護	講義
3	健康逸脱からの 回復を促す看護	症候のアセスメントと看護 (搔痒、浮腫)	講義
4		身体疾患のある高齢者の看護 (心不全)	講義
5		認知機能障害のある高齢者の看護 (うつ、せん妄、認知症)	講義
6		認知症のある高齢者の急性期一般病棟での援助	GW
7	エンドオブライフ ケア	エンドオブライフケアの概念、「生ききる」ことを支えるケア 意思決定への支援、末期段階に求められる援助 グリーフケア	講義 GW
8	試 験	筆記試験	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 単位認定試験 (100%)			
テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)			
サブテキスト			
事前・事後学習内容と方法 事前は、授業範囲のテキストを熟読する。 事後は、資料やテキストを活用し振り返りを行う。			
その他			

科目名 老年看護学方法論Ⅲ	履修単位 1単位	授業時間(回数) 15時間(8回)	
学年 2年生	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 専任教員(実務経験有)		
科目目標 老年期にある対象を理解する方法を学ぶ。			
教育目標との関連性 2年次到達目標:1・2・3・4・10			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	対象理解	高齢者の生活機能を重視した看護過程 事例提示	講義
2		情報収集、整理	
3	情報整理	ゴードンの機能的パターンに沿って 情報の整理・分析	講義 GW
4	アセスメント		
5	関連図	病態関連図・人間の反応・看護の焦点の関連図	
6	看護の焦点	目標志向型思考を活用した看護の焦点 優先度の考え方	
7	看護計画	看護計画立案	
8	試験	筆記試験	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 単位認定試験(50%) 看護過程(50%)			
テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 (医学書院)			
サブテキスト 生活機能からみた老年看護過程 (医学書院)			
事前・事後学習内容と方法 事前は、授業範囲のテキストを熟読する。 事後は、資料やテキストを活用し振り返りを行う。 看護過程は、事前に取り組み提出後、返却されたものを講義と照らし合わせて学習を深める。			
その他			

科目名 小児看護学概論	履修単位 1単位	授業時間(回数) 30時間(15回)	
学年 2学年	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 専任教員(実務経験有)		
<b>科目目標</b> 子どもの成長・発達の特徴を理解し、子どもの健康を増進するための看護について学ぶ。 子どもと家族を取り巻く社会環境を理解し、健康指標と保健対策について学ぶ。			
<b>教育目標との関連性</b> 2年次到達目標：2・6			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	対象と特徴	小児看護の対象 小児看護の特徴	講義
2	子どもの成長 発達と評価	子どもの成長・発達の原則と影響因子 成長発達の成長特徴と評価	講義
3	子どもと家族	家族の機能 家族のアセスメント 家族看護	講義
4～9	子どもの成長発達と看護 ・ 新生児期から思春期まで	新生児期・乳児期・幼児期・学童期・思春期の子どもの 成長・発達に応じた生活への支援 栄養、事故防止、運動と遊び、親子関係の成立、感染予防 と予防接種、虐待と発達障害 家族への看護 就学に伴う日常生活習慣の変化と健康保持増進への看護 ライフスタイルの変化やアイデンティティの確立に向けた 健康保持増進への看護	講義 課題
10	子どもと家族を取り巻く 社会①	子どもの医療支援 予防接種 学校保健 特別支援教育 子どもと臓器移植	講義 GW
11	子どもと遊び	子どもにとっての遊びの持つ意味 成長発達を促す遊び	課題
12	子どもと家族を取り巻く 社会②	子どもと法律 子どもと家族に関連する法律・行政支援 事例から考える	講義
13	子どもと遊び	11回で学習した内容を発表、子どもと遊び、成長発達を 促す遊びについて共有する	発表会
14	子どもの権利と倫理	子どもの権利に関する経緯 子どもの権利条約 病院の子ども憲章 子どもの倫理 親権 代理決定 インフォームドアセント/コンセント	講義
15	試験	筆記試験・まとめ	試験
<b>成績評価の方法・配分</b> *状況によって変更になる場合がある 課題提出と発表(20%)、 筆記試験(80%)			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 小児看護学 [1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論(医学書院)、国民衛生の動向			
<b>サブテキスト</b> 特になし			
<b>事前・事後学習内容と方法</b> 配布資料を基に復習を実施 特に数値は正確に覚えること			
<b>その他</b>			

科目名 小児看護学方法論 I	履修単位 1 単位	授業時間 (回数) 1 5 時間 (8 回)	
学 年 2 学年	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 専任教員 (実務経験有)		
科目目標 小児における各疾患の病態と診断・治療について基本的な理解を深める。			
教育目標との関連性 2 年次到達目標：1・3			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	感染症・免疫 リウマチ アレルギー	感染症：麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎、咽頭結膜熱 扁桃炎、髄膜炎、RS 感染症 アレルギーとは、リウマチ性疾患、気管支喘息、伝染性紅斑、 突発性発疹、ワクチンについて	講義
2	内分泌・代謝 腎疾患	代謝疾患：新生児マススクリーニング、糖尿病 腎疾患：急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群	講義
3	血液・悪性腫瘍 事故・外傷	貧血、血管性紫斑病、特発性血小板減少性紫斑病神経芽腫 ウイルス腫瘍、急性白血病、脳腫瘍、骨肉腫 頭部外傷、誤飲・誤えん、溺水、熱中症、骨折	講義
4	循環器・呼吸器	循環器疾患：心室中隔欠損症、ファロー四徴症、川崎病 呼吸器疾患：クループ症候群、喘息性気管支炎 細気管支炎、肺炎	講義
5	神経・消化器	神経疾患：乳幼児突然死症候群、てんかん、熱性けいれん、 脳性麻痺、筋ジストロフィー、二分脊椎 重症心身障害児、脳性麻痺 消化器疾患：肥厚性幽門狭窄症、ヒルシュスプルング病 腸重積症、乳児下痢症	講義
6	染色体異常 新生児疾患 低出生体重児	染色体異常：ダウン症候群、ターナー症候群、クラインフェ ルター症候群 低出生体重児の定義、新生児仮死、新生児一過性多呼吸 呼吸窮迫症候群 新生児メレナ、高ビリルビン血症	講義
7	精神疾患・虐待	発達障害、精神遅滞、学習障害、チック障害 その他の行動上の障害、子どもの虐待の定義・要因・対応	講義
8	試験	筆記試験・まとめ	
成績評価の方法・配分 * 状況によって変更になる場合がある			筆記試験 (100%)
テキスト 系統看護学講座 小児看護学[2]小児臨床看護各論 (医学書院)			
サブテキスト			
事前・事後学習内容と方法 事前に授業範囲のテキストを熟読する。授業後は資料やテキストを活用し振り返りを行う			
その他			

科目名 小児看護学方法論Ⅱ	履修単位 1単位	授業時間(回数) 30時間(15回)	
学年 2学年	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 専任教員(実務経験有)		
科目目標 病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響を理解し、子どもと家族への看護を学ぶ。 病気の経過・症状・状態に応じた、子どもと家族への看護を学ぶ。			
教育目標との関連性 2年次到達目標：1・2・3・5・7・10・11			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	病気・入院が子どもに及ぼす影響	子どもの病気の理解と対処能力、病気や入院に伴うストレス反応、外来受診・入院する子どもと家族への看護	講義
2	子どもの環境と看護	子どもの状況(環境)の特徴と看護 入院・外来・在宅の療養環境	講義
3・4	症状に応じた看護	症状を表現している子どもと家族への看護 (発熱、脱水、呼吸困難、けいれん、意識障害、痛み)	講義
5	状況に応じた看護	活動制限のある子どもと家族への看護 隔離の必要な子どもと家族への看護	講義
6	状況に応じた看護	子どもと検査・処置体験、子どもと家族への看護	講義・DVD
7	状態に応じた看護	子どもとプレパレーション	講義・GW
8	状態に応じた看護	障がいのある子どもと家族の看護	講義・DVD
9	状態に応じた看護	低出生体重児と家族への看護	講義
10	病気の経過と看護	手術を受ける子どもと家族への看護	講義・GW
11	病気の経過と看護	慢性疾患を持つ子どもと家族への看護	講義・DVD
12	病気の経過と看護	終末期(急性増悪)の子どもと家族への看護 子どもの死を看取る家族へのケア 終末期にある子どもと家族の反応と看護	講義・DVD
13	病気の経過と看護	救急処置が必要な子どもと家族への看護 災害を受けた子どもと家族への看護	講義
14	治療を受ける子どもの日常生活	乳児・幼児への日常生活援助 成長発達をふまえた安全で安楽な援助方法	講義 DVD
15	試験	筆記試験・まとめ	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 筆記試験(100%)			
テキスト 系統看護学講座 小児看護学 [1] 小児看護学概論・小児臨床看護総論(医学書院)			
サブテキスト 根拠と事故防止からみた小児看護技術(医学書院)			
事前・事後学習内容と方法			
その他			

科目名	履修単位	授業時間（回数）	
小児看護学方法論Ⅲ	1 単位	1 5 時間（8 回）	
学 年	2 学年	開講時期	後期
科目責任者	専任教員	担当講師	専任教員（実務経験有）
科目目標			
健康課題をもつ子どもと家族への看護を経過に合わせて看護を考える力を養う。 子どもの特徴を踏まえた看護技術について学ぶ			
教育目標との関連性			
2 年次到達目標：1・2・3・5・8			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1～3	看護技術演習	子どもの理解に必要な看護技術 全身状態の観察、フィジカルアセスメント 環境整備（ベッド柵管理）等	演習
4	子どもを理解 するための方法	子どもを対象とする際の情報収集の視点、 （病態・ベッドサイドでの気づき） 得た情報の解釈分析、病態と成長発達に関連 成長発達を促す看護	講義
5～7	事例展開	幼児期の子どもを対象とし、看護を導き出す一連 の過程を学ぶ	講義 演習
8	試験	筆記試験	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 事例展開課題（40%）筆記試験（60%）			
テキスト			
系統看護学講座 小児看護学[1]小児看護学概論・小児臨床看護総論（医学書院） 根拠と事故防止からみた小児看護技術（医学書院）			
サブテキスト			
系統看護学講座 小児看護学[2]小児臨床看護各論（医学書院）			
事前・事後学習内容と方法			
看護技術：援助計画の立案			
その他			

科目名 母性看護学概論	履修単位 1 単位	授業時間 (回数) 15 時間 (8 回)	
学 年 2 学年	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 専任教員 (実務経験有)		
科目目標 1. 母性の概念および母性の特徴を理解し、母性看護の目的を理解する。 2. 母性看護に必要な母性保健の動向を知り、母子保健施策の活用について基本的知識を理解する。			
教育目標との関連性 2 年次到達目標：1・2・3・4・5・6・7			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	母性看護の基盤となる概念	母性、父性、親性、母親役割、父親役割、母子相互作用、愛着形成、リプロダクティブヘルス/ライツ 家族を中心としたケア	講義
2	母性看護を取り巻く社会的変遷と現状	母性看護の変遷 母子保健統計、母子保健の施策の変遷 周産期医療ネットワーク 妊娠・出産包括支援	講義
3・4	女性のライフステージ各期における看護	ライフステージ各期の身体的変化・心理・社会的特徴 思春期：第二性徴、性意識・性行動の発達 成熟期：月経異常、月経随伴症状、性感染症、家族計画、 受胎調節 更年期：閉経・ホルモンの変化と検査・治療、更年期 症状	講義
5	母子に関する行政と法律	母子に関する保健行政と法律 母子保健法、母体保護法、児童福祉法 勤労女性に関する法律 (労働基準法・男女雇用機会 均等法) 子ども・子育て支援事業	講義
6	リプロダクティブヘルス/ライツ	母子保健の現状と女性の健康 プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションの視点 家族計画・妊娠中絶・喫煙・DV、在日外国人の母子 の支援	講義 GW
7	母性看護と倫理	母性看護領域における倫理的な問題 生殖補助医療と倫理問題 出生前診断など 1 テーマに沿って	ディベート 法
8	試験	筆記試験・まとめ	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 単位認定筆記試験 80% 課題発表 20% 講義中の態度も評価に含む			
テキスト 母性看護学概論 (医学書院) 国民衛生の動向			
サブテキスト テキストを読み参加			
事前・事後学習内容と方法			
その他			

科目名 母性看護学方法論 I	履修単位 1 単位	授業時間 (回数) 30 時間 (15 回)	
学 年 2 学年	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 院内講師 (実務経験有)		
科目目標 ・妊娠・分娩・産褥期および早期新生児における正常経過の基礎的知識を理解する。 ・妊娠・分娩・産褥期および早期新生児における異常について基礎的知識を理解する。			
教育目標との関連性 2 年次到達目標：1・2・3			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	不妊症とは	不妊の基礎知識・不育症・流産	講義
2 3	妊娠期の正常経過	妊娠期の身体的特性 (正常経過)	講義
4	分娩期の正常経過	分娩期の要素 (正常経過) 連続的胎児心拍数モニタリング	講義
5	産褥期の正常経過	産褥期の身体的特性 (正常経過)	講義
6 7	妊娠期の異常	ハイリスク妊娠 (妊娠期の感染症を含む) 感染症・妊娠悪阻・常位胎盤早期剥離・前置胎盤・ 妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病・妊娠貧血・高年 妊娠・若年妊娠	講義
8 9	分娩期の異常	前期破水・分娩時異常出血・胎児機能不全 陣痛の異常 (微弱陣痛・過強陣痛)・帝王切開術	講義
10	産褥期の異常	子宮復古不全・産褥熱・乳腺炎・産後精神障害 尿路感染・排尿障害・帝王切開術後	講義
11 12	早期新生児の健康と発育	早期新生児の身体的特性	講義
13 14	早期新生児の異常	新生児ビタミン K 欠乏症・高ビリルビン血症 先天異常・早産児・新生児一過性多呼吸・呼吸窮 迫症候群・低血糖症	講義
15	試験	筆記試験・まとめ	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 単位認定試験 100%			
テキスト 系統看護学講座 専門 母性看護学〔2〕母性看護学各論 医学書院			
サブテキスト			
事前・事後学習内容と方法 テキストを読み参加			
その他			

科目名 母性看護学方法論Ⅱ	履修単位 1単位	授業時間(回数) 30時間(15回)	
学年 2学年	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 院内講師 専任教員 (実務経験有)		
科目目標 周産期における対象の特徴を理解し、各期に必要な看護について理解する。			
教育目標との関連性 2年次到達目標：1・2・3・5・6・7・10			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1～4	周産期看護の目的 妊婦と家族への看護	周産期看護の目的 妊娠期看護の目的 妊娠各期(初期・中期・後期)の特徴と看護 健康維持・増進、セルフケアに関する支援、妊娠各期に起こりやすいマイナートラブルへの対処、家族の再調整、出産・育児の準備に関する、妊婦が受ける母子保健サービス	講義 事例提示
5～7	産婦と家族への看護	分娩期看護の目的 分娩各期(I・II・III・IV期) 産婦の基本的ニーズの支援、産痛緩和と分娩進行に対応した支援、産婦と家族の心理への支援 胎児心拍モニタリングの判読	講義 GW 演習
8～ 11	産褥婦と家族への看護	産褥期看護の目的 産褥復古に関する支援、母乳育児への支援、バースレビュー、日常生活とセルフケア、食生活、親子愛着形成への支援、育児技術獲得への支援、家族の再調整、産褥を取り巻くサポート体制、職場復帰、ソーシャルサポート	講義 GW
12 ～ 14	早期新生児期と家族への看護	早期新生児看護の目的 新生児の生理、保温、全身計測、全身の観察、清潔、哺乳、感染予防、事故防止、保育環境	講義 GW
15	試験	筆記試験・まとめ	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 単位認定試験 100%			
テキスト ・医学書院 母性看護学各論			
サブテキスト ・母性看護技術 医学書院			
事前・事後学習内容と方法 母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱの知識を活用し、母性看護学方法論Ⅲでは看護過程を展開する			
その他 基礎知識となる母性看護学方法論Ⅰを確実に復習し、講義に臨むこと			

科目名 母性看護学方法論Ⅲ	履修単位 1 単位	授業時間 (回数) 30 時間 (15 回)	
学 年 2 学年	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 院内講師 専任教員 (実務経験有)		
科目目標 1. 周産期の対象に起こりやすい異常時の看護を学ぶ。 2. 産褥期・新生児期にある対象への看護過程を理解する。 3. 対象の特徴を踏まえた母性看護技術について学ぶ。			
教育目標との関連性 2 年次到達目標：1・2・3・4・5・8・9・10・14			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1～5	周産期における異常時の看護	妊娠中に起こりやすい異常時の看護 (切迫流産の妊婦の援助、妊娠高血圧症候群と診断された妊産婦の援助) 分娩中に起こりやすい異常と看護 (微弱陣痛時の妊産婦の援助) 産褥期に起こりやすい異常と看護 (乳房トラブルのある褥婦の看護) 新生児期に起こりやすい異常と看護 (低血糖、低出生体重児、高ビリルビン血症等) その他、妊娠糖尿病、前置胎盤、常位胎盤早期剥離、骨盤位妊娠前・早期破水時、帝王切開分娩、弛緩出血、子宮復古不全、帝王切開分娩後等 早期新生児の子どもを亡くした人への看護	講義 ワーク 課題 学習含      ワーク  DVD
6～ 10	看護過程	母性看護の特徴を生かした看護過程の考え方、特徴について事例紹介 (30 代 初産婦 会社員) ゴードンの 11 の機能的健康パターンの分類、情報分析、優先順位、看護の焦点、看護目標、看護計画立案	演習 ワーク
11 ～ 14	周産期の看護技術  新生児期の看護技術	妊娠期・産褥期・新生児期に必要な看護技術 (レオポルド触診法と外計測、妊婦体験、産褥子宮の観察・乳房の観察と抱き方等) 新生児の沐浴演習 (全身の観察・沐浴実施・おむつ交換を含む)	演習
15	試験	筆記試験・まとめ	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある ・看護過程および援助計画の学習内容、記録提出状況 (期日に提出していること) および出席状況と講義、演習の態度を含めて 40%、単位認定試験 60%			
テキスト 系統看護学講座 専門 母性看護学〔2〕母性看護学各論 医学書院			
サブテキスト 母性看護技術 医学書院			
事前・事後学習内容と方法			
その他 基本となる母性看護学方法論Ⅰ・Ⅱを復習し、講義に臨むこと			

授業科目

科目名 精神看護学概論	履修単位 1 単位	授業時間 (回数) 30 時間 (15 回)	
学 年 2 学年	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 専任教員 (実務経験有)		
科目目標			
1. 精神看護の目的と意義、精神的健康の概念を理解する 2. ライフサイクルや社会の動向における精神保健と危機状況を理解する 3. 精神に障害があり医療や保護を受ける場を理解する 4. 精神保健の動向を踏まえ、精神に障害がある人がその人らしく生きるための社会復帰や地域に必要な社会制度を理解する			
教育目標との関連性			
2 年次到達目標：1・2・5・6・9・13			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	精神看護の目的 役割と機能	精神看護学とはなにか 病の体験と精神看護 「心のケア」と日本社会	講義
2		精神の健康とは 心身に影響を及ぼすストレスの影響 精神障害という考え方	講義
3	心のはたらきと人格の 形成	心のはたらき 人格の発達	講義
4		ライフサイクルとアイデンティティ 発達段階における危機状況	
5	関係のなかの人間	全体としての家族 人間と集団	講義
6	社会のなかの精神障害	精神障害と治療の歴史 精神障害と文化	講義
7		精神障害と法律制度	
8	入院治療の意味	精神科を受診するということ 治療の器としての病院・病棟	講義
9	地域における精神看護	生活を支えるための法制度	講義
10		自助グループの実際 (AA モデルミーティング)	AA ミーティング
11		地域における精神保健と精神看護	講義
12 13		社会資源の実際 (地域活動支援センター・地域生活支援センターの見学)	施設見学
14	まとめ	日本の精神障害者の現状と対象の「生きにくさ」とは	GW 発表
15	試験	筆記試験・まとめ	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 単位認定筆記試験 (80%) 提出物 (20%) も評価に含む			
テキスト			
系統看護学講座 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 精神看護学〔2〕精神看護の展開 (医学書院)			
サブテキスト			
事前・事後学習内容と方法			
その他			
GW・発表はあらかじめグループで課題学習を行い資料をまとめ、発表する			

授業科目

科目名 精神看護学方法論 I	履修単位 1 単位	授業時間 (回数) 1 5 時間 (8 回)	
学 年 2 学年	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 院内講師 (実務経験有)		
科目目標 精神障害の特徴と、主な精神疾患の原因・診断・治療について理解する。			
教育目標との関連性 2 年次到達目標：1・2・3			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	精神医学総論 精神疾患と脳	精神医学とは、精神障害の分類 大脳の機能と構造の基礎知識、神経伝達物質	講義
2	精神疾患の理解	症状を含む器質性精神障害、精神作用物質使用による精神行動の障害、統合失調症・統合失調症型障害及び妄想性障害、気分（感情）障害、神経症性障害・ストレス関連障害・身体表現性障害	講義
3	精神疾患の理解	生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群、パーソナリティ障害・習慣および衝動の障害、性同一性障害、知的障害（精神遅滞）、心理的発達障害、小児期・青年期に発症する行動・情緒の障害	講義
4	心理検査	心理検査 心理検査の分類 心理検査の種類、目的、使用法（症例提示）	講義
5	精神疾患の治療	薬物療法（向精神薬の分類、使用法） 精神療法 環境療法・社会療法	講義
6	精神疾患の回復過程	統合失調症を中心とした回復過程のポイント	講義
7	精神疾患のまとめ	学びを深め共有する	GW
8	試験	筆記試験・まとめ	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 単位認定筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 系統看護学講座 精神看護学〔2〕精神看護の展開	(医学書院) (医学書院)	
サブテキスト			
事前・事後学習内容と方法			
その他			

科目名 精神看護学方法論Ⅱ	履修単位 1単位	授業時間(回数) 15時間(8回)	
学年 2学年	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 篠崎 めぐみ	専任教員(実務経験有)	
科目目標 1. 精神の回復を促す方法を理解する 2. 精神に障害があり医療や保護を受ける場での必要な看護を理解する 3. 対人関係の中で起こる看護師の感情を理解する			
教育目標との関連性 2年次到達目標: 1・2・3・4・6・13			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	精神障害と生活	精神障害の生活への影響 回復の意味 リカバリーのビジョン リカバリーを促す方法	講義
2	精神科医療に必要な 精神看護	薬物療法・精神療法と看護	講義
3		リカバリーを促す方法としてのグループ SST	講義 体験
4		精神科における身体のケア 身体ケアを通じた 看護ケア 身体合併症のアセスメントとケア	講義
5		精神科リスクマネジメント 緊急事態への対応 行動制限と人権 隔離・身体拘束時の看護	講義
6		精神症状と看護	GW・発表
7	看護における感情労働と 看護師のメンタルヘルス	看護師の不安と防衛 感情労働としての看護 感情労働の代償	講義
8	定期試験	筆記試験・まとめ	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 単位認定試験(80%) 提出物(20%)			
テキスト 系統看護学講座 精神看護学〔1〕精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 精神看護学〔2〕精神看護の展開 (医学書院)			
サブテキスト			
事前・事後学習内容と方法			
その他 GW・発表はあらかじめグループで課題学習を行い資料をまとめ、発表する			

授業科目

科目名 精神看護学方法論Ⅲ	履修単位 1 単位	授業時間 (回数) 30 時間 (15 回)	
学 年 2 学年	開講時期 後期		
科目責任者 専任教員	担当講師 専任教員 (実務経験有)		
科目目標			
1. 精神看護における看護師の基本的な姿勢を理解する			
2. 精神看護の展開を体験し特徴を学ぶ			
3. 対人関係の分析方法を理解し他者理解・自己理解を深める			
教育目標との関連性			
2 年次到達目標：1・7・8・10・11・12			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	ケアの前提・原則 ケアの方法	自分を知る・相手を知る・関係性の理解 そばにること・遊ぶこととユーモア	講義
2	患者—看護師における感情 体験	転移、逆転移・感情の容器になる 「肯定的感情」と「否定的感情」にまつわる誤解	講義 ワーク
3	関係をアセスメントする	プロセスレコードの書き方、アセスメントの方法	講義
4	医療の現場のダイナミクス	病棟のダイナミクス・スプリッティング	講義
5	看護展開 1) 事例	患者プロフィール 病理的状态の理解	ワーク
6	看護展開 2)	精神看護におけるアセスメントのポイント 発達・ストレスコーピングを知る	講義
7	看護展開 3)	幻聴や拒否的な傾向のある対象とのコミュニケ ーション 情報収集	ワーク 演習
8	看護展開 4)	特徴を踏まえたアセスメント	講義・ワーク
9	看護展開 5)	活動を促すための看護計画立案	ワーク
10	看護展開 6)	対人関係スキルを向上するための看護計画立案	ワーク
11	看護展開 7)	事例に関する演習	演習
12	看護展開 8)	事例に関する演習	演習
13	関係のアセスメントと自己	プロセスレコード検討会	演習
14	の傾向	まとめ	
15	試験	筆記試験	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある			
単位認定試験 60% 課題提出 40%			
テキスト 系統看護学講座 精神看護学[1]精神看護の基礎 (医学書院) 系統看護学講座 精神看護学[2]精神看護の展開 (医学書院)			
サブテキスト			
事前・事後学習内容と方法 事前学習の課題あり			
その他			

科目名 地域・在宅看護方法論Ⅰ	履修単位 1単位	授業時間(回数) 30時間(15回)	
学年 2学年	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 院内講師 影山秀子 佐藤久美子 (実務経験有)		
科目目標 地域で暮らす対象とその家族を捉えて看護提供するために必要な知識を学び、あらゆる状況に応じた看護の必要性を理解する。			
教育目標との関連性 2年次学年目標：1・2・3・5・6・10			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	家族を支える看護	家族のアセスメントと家族支援	講義
2	安全を守る看護	暮らしを取り巻くリスクと安全対策、安全確保の方法	講義
3	健康期	社会参加と介護予防	講義
4	外来受診期	外来受診期の看護 入退院支援	GW
5	移行期	移行期の看護 地域包括ケア病棟	講義
6	安定期	安定期を支える看護 医療、介護、福祉の連携	講義
7	急性増悪期	急性増悪期を支える看護 医療連携	講義
8	終末期(グループケアを含む)	終末期を支える看護	講義
9	地域看護の特徴	情報収集、情報整理	講義
10	暮らしを支える環境調整	暮らしを支える福祉用具	講義
11		福祉用具見学	GW
12		療養環境調整に必要な視点とアセスメント	GW
13	まとめ	社会参加と生活支援の必要性	GW
14		報告会	GW
15	試験	筆記試験	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 筆記試験 70% 課題 20% 学習参加態度 10%			
テキスト 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 系統看護学講座			
サブテキスト			
事前・事後学習内容と方法 事前にテキストを読み参加する 事前事後の課題			
その他			

科目名 地域・在宅看護方法論Ⅱ	履修単位 1単位	授業時間(回数) 30時間(15回)	
学年 2学年	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 川口 みさ子 川瀬 智恵 平川博美 桜井 なおみ 西澤 琴美 (実務経験有)		
科目目標 暮らしを支える地域包括ケアシステムにおける制度と看護の役割を理解する。 勤労者が職業生活を継続するための援助について学ぶ。			
教育目標との関連性 2年次到達目標：1・2・3・6・13			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	地域療養を支える制度と その活用	介護保険制度とその活用	講義
2		高齢者を支える取り組みとその活用	講義
3		障害者を支える制度と取り組みとその活用	講義
4		難病者を支える制度と取り組みとその活用	講義
5		小児を支える制度と取り組みとその活用	講義
6		家族のライフステージと看取り	講義
7		社会資源の活用と調整	講義
8		認知症サポーター講座受講	講義
9	地域の中で考える災害	暮らしの中の災害に備えた支援 危機管理	講義
10		災害時の看護	GW
11		まとめ	GW
12	勤労者看護とは	勤労者看護の定義と目的	講義 GW
13		治療と就労の両立支援	
14		勤労者看護の実際	
15	試験	筆記試験	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 筆記試験60% 課題点 30% 学習参加態度 10%			
テキスト 勤労者医療概論 独立行政法人労働者健康安全機構 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1			
事前・事後学習内容と方法 事前にテキストを読み参加する			
その他			

科目名 地域・在宅看護方法論Ⅲ	履修単位 1単位	授業時間(回数) 15時間(8回)	
学年 2学年	開講時期 後期		
科目責任者 専任教員	担当講師 影山 秀子 川口 みさ子 平川 博美 (実務経験有)		
科目目標 暮らしの中で行われる医療処置と支援の必要性について理解する。			
教育目標との関連性 2年次到達目標：1・2・3・5・6・7			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	在宅療養において医療処置を必要とする対象	医療処置を必要とする対象の理解	講義
2	呼吸に関する技術	呼吸・循環に関する必要な視点とアセスメント	講義
3	在宅酸素療法、人工呼吸療法	在宅酸素の実際、NPPVについて	講義 演習
4	食生活・嚥下に関する技術	食生活と嚥下に関する必要な視点とアセスメントと技術 胃ろう、中心静脈栄養に関する技術	講義
5	排泄に関する技術	自然排泄に関する必要な視点とアセスメント、膀胱留置カテーテル、ストーマ	講義 演習
6	薬物療法に関する技術	薬物療法に関する必要な視点とアセスメント、内服	講義
7		疼痛コントロール	講義
8	試験	筆記試験	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 筆記試験：70% 課題 20% 授業参加態度 10%			
テキスト 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論1			
サブテキスト			
事前・事後学習内容と方法 事前にテキストを読み参加する			
その他			

科目名 地域・在宅看護方法論Ⅳ	履修単位 1単位	授業時間(回数) 15時間(8回)	
学年 2学年	開講時期 後期		
科目責任者 専任教員	担当講師 藤田なぎさ	専任教員(実務経験有)	
<b>科目目標</b> 地域で暮らす生活者と、対象を取り巻く家族と環境を含めたアセスメンから対象の望む生活を維持するための看護を展開する方法学ぶ。			
<b>教育目標との関連性</b> 2年次到達目標：1・2・3・4・5・6・7・10・12			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	地域・在宅における看護過程の特徴	地域・在宅で療養する対象の特徴を活かした看護の考え方 情報収集の視点の確認	講義・GW
2	事例検討	慢性疾患を抱える独居高齢者の看護	講義・GW
3		移行時に必要な看護	講義・GW
4		呼吸器疾患を抱える対象とその家族	講義・GW
5		認知症高齢者と家族	講義・GW
6		終末期を迎える対象と家族	GW
7		終末期を迎える対象への看護援助	演習
8	まとめ	学びの報告	
<b>成績評価の方法・配分</b> *状況によって変更になる場合がある 課題 60% 筆記試験 40% 授業参加態度 10%			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 2			
<b>サブテキスト</b> 看護が見える④ 看護過程の展開			
<b>事前・事後学習内容と方法</b> 事前にテキスト、サブテキストを読み参加する 事後はテキストを参考に記載する			
<b>その他</b>			

科目名 地域・在宅看護方法論Ⅴ	履修単位 1 単位	授業時間 (回数) 15 時間 (8 回)	
学 年 2 学年	開講時期 後期		
科目責任者 専任教員	担当講師 専任教員 (実務経験有)		
科目目標 地域の特性からそこで生活する人々のよりよく暮らすための工夫について学ぶ。			
教育目標との関連性 2 年次到達目標 : 1・4・6・9・10・11・12・13			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	地域特性・統計	物理的環境、教育、安全と交通、行政、保健医療と福祉、経済、レクリエーションについて	グループ 活動
2	事前準備	地区調査事前準備、訪問時のマナー	
3	フィールドワーク	地域活動者のインタビュー実施	
4			
5			
6	グループでのまとめ	現状と課題、看護の必要性と多職種多機関連携	
7	報告会	全体報告 インタビュー対象者も参加、全体共有	
8	まとめ	学習の振り返り	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 報告会とそれまでの参加状況等を踏まえたパフォーマンス評価			
テキスト 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 1 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 地域・在宅看護論 2			
サブテキスト			
事前・事後学習内容と方法			
その他			

科目名 看護の統合と実践 I	履修単位 1 単位	授業時間 (回数) 30 時間 (15 回)	
学 年 2 学年	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 専任教員 (実務経験有)		
科目目標 対象に合わせた看護を実践するための基礎的能力としての知識・技術・態度を統合するための学習方法を学ぶ			
教育目標との関連性 2 年次到達目標：1・2・3・4・8・9・10・11			
回数	単元・項目	単元内容	方法
1	臨床判断とは	臨床判断と臨床推論	講義
2	看護場面の意味づけ	演習や実習の看護場面から臨床判断を振り返る	講義
3	臨床判断①	対象理解のための学習とその方法	講義
4		対象の反応の理解	GW
5	臨床判断②	対象の状態に合わせた援助の実施	演習
6	臨床判断③	援助の実施を振り返る	GW
7	臨床判断④	援助の実施から医療安全を検討する 医療安全ミーティング	講義 GW
8	臨床判断⑤	援助の実施から倫理的判断を検討する 倫理ミーティング	講義 GW
9	気づきの演習①	「気づく」とはどういうことか	講義
10	気づきの演習②	事例をもとに対象の状態を解釈する	演習
11	気づきの演習③	事例をもとに反応する	演習
12			GW
13	臨床判断を育てる	実習での経験を振り返り、発表する	GW
14			GW
15	試験	筆記試験・まとめ	
成績評価の方法・配分 * 状況によって変更になる場合がある 筆記試験 60% 課題点 30% 演習参加態度 10%			
テキスト 系統看護学講座 専門 全般 (医学書院)			
サブテキスト 看護がみえる 看護過程 (メディックメディア)			
事前・事後学習内容と方法 演習に向けた援助計画立案と技術練習			
その他			

科目名 災害看護	履修単位 1単位	授業時間(回数) 15時間(8回)	
学年 2学年	開講時期 後期		
科目責任者 専任教員	担当講師 佐伯 昌美 村上 秀明(実務経験有)		
科目目標 災害が健康へ及ぼす影響と、災害時に看護師が果たす役割、医療チームにおける連携を学ぶ			
教育目標との関連性 2年次到達目標：2・3・5・6・9・10・11			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	災害とは	災害の定義・災害の基本	講義 GW
2	災害の概要	災害サイクルにおける社会や人々の状況と健康障害	講義
3	災害サイクルに応じた看護	災害サイクルに応じた看護の実際	講義
4	災害と情報 災害と関連法規	災害と情報 災害関連の法律と制度	講義
5	災害時の救援活動の実際 災害対応演習	1. START法トリアージ 2. 災害時の搬送方法 3. 災害時の情報収集、伝達、共有	演習
6			
7	災害とこころのケア	災害がもたらす精神的影響 ・被災者と遺族のこころのケア ・救援者のストレスとこころのケア 災害時の看護師の役割	講義
8	試験	筆記試験	
成績評価の方法・配分 筆記試験(100%)			*状況によって変更になる場合がある
テキスト 系統看護学講座 災害看護学・国際看護学(医学書院)			
サブテキスト			
事前・事後学習内容と方法 授業内で提示			
その他 参考図書 グローバル災害看護マニュアル NPO 災害人道医療支援会災害看護研修委員会編集(真興交易株式会社)			

科目名 看護の統合と実践Ⅱ	履修単位 1単位	授業時間(回数) 30時間(15回)	
学年 3学年	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 専任教員(実務経験有)		
科目目標 多重課題の優先度を学びリスクマネジメント能力、倫理的判断能力を養うとともに、対象の状態に応じた看護実践能力を養う			
教育目標との関連性 卒業時到達目標：2・4・5・6・10			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	医療現場における効果的なチームづくり	チームビルド 看護チームの役割	講義
2	時間管理と優先順位の決定	優先順位と時間管理	講義
3	看護場面における倫理について	看護の日常にある倫理	講義
4		専門職としての責任と倫理観 倫理カンファレンス	GW
5	報告と医療安全	組織における医療安全体制と組織文化	GW
6	薬剤と医療安全	薬剤・注射関連エラーの事故防止 薬剤のラベルの見方	講義
7	多重課題への対応	多重課題を避けるための予測とスケジュール	講義
8	多重課題の優先順位判断	事例の理解と情報共有	講義
9		行動計画立案	
10		多重課題における優先度の判断と行動	演習
11		突発事項に対する対応と対策	
12		臨床判断の振り返り	
13	医療・看護の質を向上させるための検討会	医療安全、倫理的側面を統合した看護の実践の振り返り	演習
14		検討会	
15	定期試験		
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある 課題提出・事例検討会参加状況 試験 *再試験対象者は筆記試験とする			
テキスト			
サブテキスト 看護管理			
事前・事後学習内容と方法 事前学習ワークシート・援助計画の立案・演習後の振り返り用紙を提出			
その他			

科目名 看護管理	履修単位 1単位	授業時間(回数) 30時間(15回)	
学年 3学年	開講時期 前期		
科目責任者 専任教員	担当講師 院内講師	専任教員(実務経験有)	
科目目標 看護の現場で行われている看護体制や看護システムについて理解を深め、諸外国における保健・医療・福祉の現状と課題を理解し看護師の役割を学ぶ			
教育目標との関連性 卒業時到達目標：2・3・4・5・6・7・8・9			
回数	単元・項目	授業内容	方法
1	看護とマネジメント	看護と看護職 看護管理と看護管理学	講義
2	看護ケアのマネジメント	看護ケアのマネジメント 日常業務のマネジメント	講義
3		チーム医療と多職種連携 24時間継続する看護	GW
4	看護管理と倫理	患者の権利 インフォームドコンセント 看護管理の視点からとらえた倫理的課題	講義 GW
5	看護職のキャリアマネジメント	キャリアとキャリア形成 タイムマネジメント ストレスマネジメント	講義
6	看護サービスのマネジメント	看護サービス提供の仕組み作り 看護の質評価	講義
7	施設・設備環境・物品管理	看護職の能力開発 労働環境管理	講義
8	人材のマネジメント	組織原則 リーダーシップ 組織の調整・変化・変革	講義
9	組織を動かす 組織の調整	組織の課題とマネジメント	講義 GW
10	看護活動を取り巻く法律・制度 看護管理者に求められる能力	看護職と法 医療制度・診療報酬制度 看護政策 看護管理者のコンピテンシー	講義
11	国際看護とは	国際看護とは 世界の健康問題の現状 国際看護学の対象 国際看護学に関連する基礎知識	講義
12	国際協力のしくみ	国際協力のしくみ グローバルヘルス 国際救援の仕組み・調整・開発協力	講義
13	文化を考慮した看護	文化を考慮した看護理論	講義
14	開発協力と看護	開発途上国と看護	講義
15	試験	筆記試験 まとめ	
成績評価の方法・配分 *状況によって変更になる場合がある			筆記試験(100%)
テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践①看護管理(医学書院) 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践③災害看護学・国際看護学(医学書院)		
サブテキスト	国民衛生の動向 厚生労働統計協会		
事前・事後学習内容と方法			
その他			